

6月 にUN Women初 のチャリティコンサート!!

日時 2011年 6月 17日 (金)
PM6:00 開場 PM6:30 開演
会場 古賀政男音楽博物館内「けやきホール」
(小田急線、東京メトロ 千代田線
代々木上原駅下車 3分)
入場料 全席自由席 4,000 円

今宵、あなたを
ナポリにお連れする...
オペラとカンツォーネの夕べ

生の歓びを歌い上げる イタリア民謡・カンツォーネを 本場のオペラ歌手が 熱唱する!

風の翼 にのせて



“ネットワーク会議”で報告!

昨年 11 月 14 日、情報量をともし、新しい機構
に備えたいと「女性と仕事の未来館」で日本国内委
員会理事・地域等委員会・正会員会合同の研修会が
開かれた。午後から
の地域等委員会
ネットワーク会議
では、阿部会長が
東京地域委員会の
2010 年度の主な
活動をパワーポイ
ントを用いて種々
報告した。



埼玉・上尾文化センターで 恒例の「清友会」クリスマス・チャリティ コンサートとバザーに参加

1998 年から指揮者・友清和親氏 (代表) の下で
毎年行われているチャリティコンサートに私ども
も招かれ、会場でのバザーに出店して、7 年目を迎
える。また、現在まで毎年、高額の寄付を「清友会」
から頂いている。

12 月 12 日 (日) も
上尾市民の皆さんやお
子さんたちが集うコン
サートを拝聴し、ロビ
ーで昼の休憩時間を活
用してのバザーに事業
部を挙げて年内最後の
活動に奔走した。



*ご入会 ご寄付をいただき 有難うございます。

新規会員: 高田武子 鳥賀陽和子 立木冬麗
寄付者: 大村陽子 高橋美智 古山滋子 清友会
活動寄付者: 鈴木賀子 松比良節子 加藤聖子 太田恵子
上原淳子 阿部幸子 牧島悠美子
鷲見八重子 江尻美穂子 五十嵐康子
山本和代 丸山庸子 望月浪江 原 ひろ子
高田武子 福田文子 星野江利子
匿名 (2 名)



2011 年 2 月 10 日まで (敬称略)

会員の皆さまへお願い!!

年会費(1月~12月)
個人会費 3,000円 団体会費 5,000円

1月からスタートしております。
同封の振込み用紙にて、お振込みくださいますよう
お願い申し上げます。
(会費納入者には、会員証をニューズレター発送
の折、同封申し上げます。
寄付者・活動寄付者は、掲載を持ってお礼に代え
させていただきます。

UN Women 日本国内委員会東京地域委員会

UN Women 東京 News Letter Vol. 1

発行人: 東京地域委員会会長 阿部 幸子

発行日: 2011年3月20日

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1
ニューステートメナー331

Tel&Fax 03-6228-0029

郵便振替: 00190-6-5508800

http://www.unifemtokyo.org

★編集後記

UN Womenの発足とともに、ニューズレターもカラーで一新しました。特にこの1年間は移行期で、変化が大きいと思われます。ニューヨークからの情報をホームページも合わせてお伝えしてまいります。ご愛読いただけますようよろしくお願い申し上げます。尚、ホームページのURL、Eメールはそのまま、事務所のメールアドレスも、上半期は以前のものを使用します。(T)



UN Women 東京 News Letter Vol. 1

UN Women (国連女性機関) 日本国内委員会東京地域委員会

2011.3.20

会員の皆さまへ

前号でもお知らせ致しましたように、ユニフェムは国連改革の一環として新しい国連の機関に統合され、本年 1 月 1 日より「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関 (略称: UN Women)」として発足いたしました。「ユニフェム東京」も「UN Women 日本国内委員会東京地域委員会」に名称を変更することになりましたが、これまでの活動をそのまますべて「UN Women (国連女性機関)」に移行させていただきたいと思ひます。今後も発展途上国の女性の経済自立支援に全力で取り組み、拠出金は UN Women 日本国内委員会を通じてニューヨークの本部に送ることになります。また役員のメンバーも事務所もまったく変わりませんので、今後もユニフェム東京と同様に何卒ご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2011 年「UN Women 日本国内委員会東京委員会」総会 開催報告

2011 年 1 月 26 日 (水) 午後 1 時から津田塾大学同窓会会議室で出席者 27 名、有効委任状 146 通、総会有効総数 150 名を以って開催された。規約に基づき、阿部幸子会長が総会議長に就き、書記 2 名、署名人 2 名を選出の後、総務より 2010 年度の事業報告、会計による 2010 年度決算報告、監事からの監査報告があり、出席者全員の承認を得た。続いて 2011 年度事業計画案と予算案が提示され、承認された。議事終了後、役員推薦委員会報告がなされた。終了後の総会記念講演会で原 ひろ子氏が「UNIFEM から UN Women へ」と題する講演を行った (2~3 頁に掲載)。



2010年度 拠出金額

ユニフェム東京	1,077,207 円
国内委員会から ユニフェム本部へ	10,818,542 円
日本政府 (通常の拠出金)	49.77 万米ドル
他に UN Women へのアフガニスタン女性支援プロジェクト (2011 年実施) として 450 万米ドルを拠出。	

2010年度 決算報告 (2010.1.1~2010.12.31)

1.収入の部	
会費収入	945,000
事業収入	2,609,952
啓発活動	27,500
コンサート	1,879,700
グッズ	702,752
寄付金収入	507,287
寄付	69,500
活動寄付	437,787
募金収入	112,214
利息	1,210
雑費	10
前期繰越金	3,324,095
収入合計	7,499,768

2.支出の部

事業費	1,176,656
管理費	1,812,969
事務所費	1,273,448
事務費	539,521
UN Women 拠出金	1,077,207
10 周年記念事業費	477,750
次期繰越金	2,955,187
支出合計	7,499,768

「UNIFEM から UN Women へ」

原 ひろ子氏

UN Women 日本国内委員会副理事長
お茶の水女子大学名誉教授・城西国際大学客員教授

国連で「国連婦人開発基金（UNIFEM）」が市民権を得て 26 年。馴れ親しんだユニフェムがどのようなプロセスで UN Women に進展したのか？

1993 年国際人口・開発会議に日本政府代表団顧問として参加以来、国連女性の地位委員会をはじめ、日本女性監視機構（JAWW）やアジア太平洋女性監視機構（APWW）の代表・顧問助言者として活躍、国連の GEAR（ジェンダー平等機構改革）運動に数年参加されている原 ひろ子氏に伺った。

1 国連と女性（第 2 次世界大戦後の歴史）

1945～1965 年は男女平等に関する舞台造りで、46 年は婦人の地位小委員会第 1 回会合が持たれ、その後完全な機能委員会に昇格。48 年第 3 回国連総会で「世界人権宣言」が採択。少数の女性の意見が採用された。

1966～1975 年は開発途上国による主張の受け入れがなされ、開発途上国を含む世界の国々で女性の NGO の活動・国際連携の台頭、拡大がみられた。75 年には 133 カ国参加で国連「国際婦人年メキシコ会議」が開かれた。

1976～1985 年は第 30 回国連総会で「国連婦人の 10 年～平等・開発・平和」と宣言。84 年に「国連婦人の 10 年基金」を国連開発基金（UNIFEM）と改称した。

1986～1995 年は「開発」における女性への注目が課題となった。88 年国連事務局内の「婦人の地位課」が「婦人の地位向上部」に昇格した。

92 年にはユニフェム日本国内委員会が設立された。



95 年に北京で「第 4 回世界女性会議」が行われ、平等・開発・平和のための行動、「北京宣言」・「行動綱領」が採択された。同年 12 月、日本が第 50 回国連総会で「女性に対する暴力撤廃基金」の設置を提案、採択された。

1996～2005 年は「女性の権利」、「女性の地位向上」、「男女平等」、「ジェンダー課題」等に関して多角的な論議がされた。96 年第 51 回国連総会で、UNIFEM に設けられた上記の「暴力撤廃基金」に日本が 100 万ドルの拠出を発表した。

2 UN Women の発足に向けての国連中枢部の動き

2005 年秋、ニューヨークの国連本部で世界サミットが開かれ、国連改革の必要性を痛感したコフィー・アナン事務総長が翌年の 2 月 16 日に世界 15 カ国から 15 人の有識者を集め、System - Wide Coherence Panel に任命した。日本からは当時参議院議員の武見敬三氏が加わった。

「国連改革」は国連が始まったときから度々話題になってきたが、なかなか実現できずにきた。コフィー・アナン氏は非常に強い意志を持ち、あと 1 年で任期を終えるということで焦りもあったと思われる。

2 月末より WEDO と CWGL の 2 つの団体が G E A R キャンペーンを展開。15 人の中に日本の武見さんが入っているから

日本からの NGO を入れようと私に白羽の矢があたり、何も分からず出席した。会合に出て大事なことだと思ったことは、‘95 年に USG (Under Secretary General) が女性 2 人で 10%、ASG (Assistant Secretary General) が 2 人で 14.% で、国連の職員の中で特に決定権を持っている女性職員が少ないことを知ったことだ。この数字を高めていかなければならないことが GEAR キャンペーンの大きな目標の 1 つであった。しかも今回の 4 機構が合体して国連全体の中でジェンダー意識を高揚するということであるし、USG ならば ASG と一緒に国連全体の方針を決める管理をしているので、そこに殆ど女性がいなことは、国連全体の女性に関する施策、お金の配分が後回しにされるということであるので、頑張ろうということになった。

3 GEAR グループの活躍

そこで GEAR キャンペーンは毎年 CSW のときに集って運動方針を決め、各国の政府代表に伝え、事務総長等の上層部に各大陸代表が 2 名ずつ 10 名以上で出向き「私たちは世界で繋がっています。あなた方が国連改革をどうするか見守っていますよ」と主張した。

15 名の Coherence Panel の委員たちも凄い勢いで会議をした。2006 年 4 月 4 日から 9 月 1 日までの間の延べ 35 日にわたり、世界各地で精力的に会合を持った。パキスタンの大統領が議長で、2006 年 7 月 2 日ジュネーブで世界の市民団体の代表と会談。アジア太平洋地域からは、ネパール、フィリピン、タイが参加し、ジェンダーの観点で発言した。2006 年 11 月 9 日、System-wide Coherence Panel による報告書が提出され、GEAR グループもこれを高く評価した。

コフィー・アナン事務総長は 11 月 20 日にこのペーパーを国連総会で配ったが、英語のバージョンしか配布しなかった。他言語に翻訳する時間がなく、総会はこの凄いブーイングで各国代表は相手にしなかった。

《会員便り》 マザー・テレサの足跡をたずねて

東京都東久留米市
中曾 美穂子さん



施設がある路上にて撮影。
ボランティアスタッフは、毎日この道を歩いて施設まで通う。
目の前に広がるインドの現実には、思わず言葉を失った。

昨年 9 月、連日の猛暑の東京を抜け出し、妹と二人で念願のインド・コルカタへ飛んだ。生誕 100 周年迎えたマザー・テレサの施設を訪ねボランティアをするためだ。ホテルを早朝に出て、スラム街を幾つも通り抜け、やっとの思いで障害者施設に着き、2 日間の労働に汗を流した。
諸外国から善意で集まったボランティアスタッフ達と共に障害者の体を拭い、食事の手助けなどを行った。介護をする人もされる人も、国が違っても心は通じるもので、観光では味わえない人との交流は、爽やかな涼風のような思い出となった。

12 月 4 日、2010 年 NGO 日本女性大会に UN Women のミチエル・パチュレ事務次長より長文のメッセージ届く（房野 桂訳）
「様々な進歩が見られるとはいえ、しなければならないことはまだ沢山残っています。UN Women の関わる仕事を始めるにあたり、UN Women の設立を熱心に提唱してくださった多くの支持者たちと、私は協働するつもりです。貴団体のような女性団体やネットワークから意見を聞くことを楽しみにしております。すでに支援やガイダンスなど多くの言葉を受け取りました。いくつかの女性団体ともお会いしましたし、これからもお会いするつもりです。」（抜粋）

コフィー・アナン氏にすれば、自分が事務総長のときに国連改革をしたいと思っていたのにできなかった。それは総会で承認されないままに翌年の 2007 年 1 月、パン・ギムン事務総長へのバトンタッチとなった。パン・ギムン氏も着任挨拶で国連改革に触れなかった。GEAR 関係の女性たちはひどくガッカリした。しかし、逆に 2010 年 7 月までの 3 年半の時間がかかったお陰で、GEAR の問題をさらにロビイングできた。

国連改革に関し、色んな面で精力的にロビイングしたのは、女性たちであった。従って Coherence Panel 報告の中で一番早く実現したのが、UN Women である。これから環境問題などその他のことも国連改革の中で進んでいくと思う。

4 UN Women の今後の課題

今後の課題としては、国連組織でジェンダーの問題を多様なテーマで実施している他の組織とどう連携をしていくかが大事だ。途上国の現場に行くと、時々経験するのは UNFPA プロジェクトが母子保健を行っていると WHO が同じ村の隣の地域で支援をしている。この方針の軸が異なっていることがあり、「えっ？」と

いうことがある。それぞれは行動計画のプロジェクトのアイディアに沿って懸命にやっているのだが、その間の調整がなされないと現地の人に迷惑をかけたり、諸国の税金の無駄使いになる。拠出金が有効に使われるかを見極めていかなければならない。

11 月 10 日執行理事国選挙があり、日本は 3 年任期の執行理事国となった。なぜか東アジアの日本、中国、韓国の 3 カ国が入り、太平洋地域国家は 1 カ国も入っていない。3 年後は 3 カ国が全部抜ける。地球規模の視点でウオッチしていくことが必要と思う。1 月 1 日から 100 日間、何ができるのか。GEAR キャンペーンでは、今こそ釘を打とうと言っている。皆で見守って発言していくことが大事だ。（講演 要旨）

パイプオルガンの重厚な音色に包まれて...

第 16 回クリスマス チャリティコンサート



12 月 6 日（月）午後、武蔵野市民文化会館小ホールで、一足早く、これぞクリスマスの音楽；パイプオルガンのコンサートが行われた。同志社大学名誉教で日本屈指のオルガニストの鴛淵紹子さんを京都から迎えての演奏会に関西からもファンが押しかけ、ヨーロッパのゴシック時代を髣髴とさせるその重厚なその音色に魅せられた。日本オルガン協会、同志社大同窓会の後援を得て、場内はほぼ満席。第 1 部はバッハのオルガン曲の中から「変奏曲とフーガ変ホ短調」、「装いせよ、わが魂よ」等 4 曲、休憩をはさんで、パッヘルベルの「高き天より我は来たれり」ボエルマンの「ノートルダムの祈り」、ヴィエルヌの「鐘」等が弾かれた。「大変高度なコンサートでした」「一度はじっくり聴いてみたかった」と皆さん大満足で散会した。